様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	特別支援教育専攻 ／田中　淳一

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

①まず、教師に必要な知識のみならず、今の教育現場で問題とされている事柄や課題を知ることが必要であるので、現職大学院生や修了生からこれらのことについて聴取を行う。その上で、その事柄や課題の解決方法について教員等と検討し、実行の現実性について討論する。
②授業において、これらの内容を述べ、学生との対話を通して、いかなる解決策があるかについて意見を求めることで、思考することを要求する。
③これらの課程を何度か繰り返すことで、問題の解決法に関する実力をつけたいと考えている。特に、レポートによる学生個人の考えを把握し、必要とあらば修正等を行い、教育実践力をつけることに役立てたい。

2．点検・評価

①現職大学院生や修了生から、教師として必要な知識や今の教育現場で問題とされている事柄や課題について、機会をみて聞き取りを行うことができた。特に、本学修了生からの聴取ができ、解決方法について有意義な意見を頂くことができたことは、授業実践に役立つものと考えられた。
②授業において、問題や課題について得られた内容を報告した。その後、学生との間で解決策について意見交換を行ったことは、教員を目指す学生にとって貴重な経験になったと推察された。従って、今後の授業においても行っていくべきであると判断した。
③授業中に学生全員の意見を聞くことが不可能であったので、これらの問題や課題等の解決策について、レポートにより意見等の把握に務めた。何度か繰り返すことで、解決法について考える力がついたように感じた。この方法は、教育実践力をつけることに役立つものと確信するに至り、十分な効果が得られた。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①学生の授業へ積極的な参加を促すため、授業中における討論等を活発に行う。
②教員職を希望する学生に対して、学習意欲の維持や基礎知識の獲得等を目的とした指導行う。勉強する目標を設定させ、どの程度こなせたかを評価し、常に一定以上の努力が行われるように努めたい。
③授業内容の理解を促すため、授業の終了時あるいはオフィスアワーに、分からないことについて積極的に質問をするように指導を行う。
④学生からの様々な相談に随時応じ、当専攻の教員と連携し対応にあたりたい。

２．点検・評価

①学生への質問を多くすることにより、学生が積極的に授業に参加するようになった。
②教員職を希望する学生に対して、基礎知識の獲得等と学習意欲の維持を目標とした指導を行った。その結果、基礎知識の獲得を目指して勉強する時間が増加し、また、学習意欲が強くなった。考えていた以上の結果が得られた。
③授業の終了時に、数名の学生が授業内容について質問が毎回の様にあり、説明を行い理解を深めた。同様に、オフィスアワーに学生の研究室への訪問があり質問があった。
④直接学生からの相談はなかったが、学生の問題について当専攻の教員と対応にあたった。
⑤学部4年次担任として、教員採用試験ための模擬授業、個人面接を担当した。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

①以前より進めている「性ステロイドホルモンと飲水行動との関連性」についての成果をまとめ、学会誌に投稿する。
②現職教員とともに行っている研究「アミン系神経活動が学習に及ぼす影響」の成果を、神経科学関係の学会で発表する。
③科研費をはじめ学外の研究助成の公募に積極的に申請し、外部からの資金の調達を試みる。
④ノートルダム清心女子大学の林泰資教授との「ストレスに関する協同研究」を進める。

２．点検・評価

①「性ステロイドホルモンと飲水行動との関連性」についての成果をまとめることができ、海外誌(Neurochemistry International)に投稿した。
②「モノアミン系神経活動が学習に及ぼす影響」の成果が得られたので、マイクロダイアリシス研究会で発表した。
③学外の研究助成に公募したが、取得できなかった。
④ノートルダム清心女子大学の林泰資教授との「ストレスに関する協同研究」である程度の成果が得られたので、海外での学会（Society for Neuroscience）での発表登録をした。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

①大学院教務委員会、安全管理委員会および臨床研究倫理審査委員会の委員として、本学の運営に貢献する。
②実験廃棄物等管理責任者および実験廃棄物等取扱責任者として、運営に貢献する。
③学会等において、本学大学院への進学を勧め、大学院定数確保に貢献したい。

２．点検・評価

①大学院教務委員会、安全管理委員会および臨床研究倫理審査委員会の委員として、本学の運営に貢献した。
②実験廃棄物等管理責任者および実験廃棄物等取扱責任者として、運営に貢献した。
③学会や他大学の友人に会った際に、教員希望者に対し本学大学院への進学を勧めた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①教育支援講師として登録し、要請があれば現地において支援（講演等）を行う。
②附属学校における研究発表会に参加し、意見交換等を行う。
③公開講座、徳島特別支援教育事例検討会、発達障害シンポジウム等の開催に関与し、地域の方々と交流・連携をはかる。
④外国人留学生、教員研修留学生を受入れる。

2. 点検・評価

①教育支援講師として登録したが、要請はなかった。
②数回附属特別支援学校へ行き意見交換等を行った。研究発表会には他の用件のため参加できなかった。
③公開講座「特別なニーズのある子どもへの支援」を開催し、意見交換を行った。また、第4回徳島特別支援教育事例検討会を開催し公開講演の座長を務めた。さらに、発達障害シンポジウム等の開催に関与した。
④外国人留学生、教員研修留学生の希望はなかった。
⑤徳島県教育委員会教育職員免許法認定講習の講師を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

教員採用試験のための模擬授業、個人面接を担当し、また担任として役割を果たすことで合格率の向上に貢献した。
公開講座や徳島特別支援教育事例検討会を開催し、社会との連携に貢献した。
他大学の友人に本大学院への進学を促してくれる様に要請し、大学院定員確保のための努力を行った。